

英語科学習指導案

指導教諭：

授業者：

1. 日時： 年 月 日 () 第 限

2. 学年・組： 2年 組

3. 単元名： Lesson 7 Presentation (New Crown English Series 2 三省堂)

4. 単元について：

(1)題材観：本単元はメイリンが“Ways to Keep in Touch”というテーマで、クラスメイトに尋ねたアンケートの結果やインターネット上の投稿記事で知り得た情報をもとに、グラフや図などの視覚情報を用い発表を行うという内容である。GET Part 1~3 で得た情報に基づき、Use-Read でプレゼンテーションを作るという構成になっているため、“I like ~ better than ...”という意見を述べる表現、“As the chart shows,”など視覚情報を参照する表現、最上級、比較級、同級比較などデータを説明するときに使われる表現が多く用いられている。したがって、視覚情報使って説明するのに必要な表現やその使い方を教科書から学び、実際にアンケート結果を適切な視覚情報に表し、口頭で発表するための力を養うことができる。

(2)生徒観：コミュニケーションへの関心・意欲が高く、ペア活動やグループ活動に意欲的に参加する。既習事項については、十分理解し、自在に使えていると判断できる。

(3)指導観：中国地方を初めて訪ねる ALT の友人に、広島・岡山について紹介をするという具体的な使用場面を設定して、指導を行う。実際にどのような情報を紹介すべきか、グループで考え、クラスメイトにアンケートを取り、その結果を、視覚情報を用いながら報告するプレゼンテーションを行うことをゴールタスクとする。指導にあたっては、第1時に作成した原稿を、教科書の表現や構成と比較させることを通じて、段階的に推敲する過程を取る。

5. 単元目標

中国地方に初めて訪れる ALT の友人に紹介するために、クラスメイトに地域のおすすめを尋ねるアンケート調査を行い、その結果を適切な視覚情報に整理したものを用いながら発表することができる。

6. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>[知識] 比較級・最上級・同級比較の用法、視覚情報を提示する際の表現を理解している。</p> <p>[技能] ALT の友人に地域を紹介するために、事実や情報を整理し、比較級などを用いて発表する技能を身につけている。</p>	<p>外国の人に「行ってみたい」と思ってもらえるように、地域の紹介に必要な情報をクラスメイトにアンケート調査を行い、その結果を適切な視覚情報に整理し、視覚情報を提示しながら、聞き手にわかりやすく発表している。</p>	<p>外国の人に「行ってみたい」と思ってもらえるように、地域の紹介に必要な情報をクラスメイトにアンケート調査を行い、その結果を適切な視覚情報に整理し、視覚情報を提示しながら、聞き手にわかりやすく発表しようとしている。</p>

7. 単元の目標に到達した生徒の英語使用の「モデル」

(※単元の学習を経て、生徒がどのような英語を話す／書くことができれば B とするかを記述する。)

“What is your favorite sightseeing spot in Hiroshima?” We asked our 35 classmates this question. As this graph shows, the most common answer is the A-Bomb Dome. Many people visit to this place every year. They think they can learn peace’s important.

Ten of my classmates chose Miyajima Island. Miyajima is historical place and people can do a lot of things in there. For example, they can go to the aquarium and climb the mountain. And, there are a lot of deer in there.

Other students chose Fukuyama. Fukuyama is famous for rose. Also, they can enjoy Fukuyama Castle. In conclusion, many of our classmates like historical place. Enjoy your stay in Hiroshima.

※下線部のような文法上の誤りは、コミュニケーションに支障がないとみなし、減点の対象とはしない。

8. 指導と評価の計画 (全 8 時間)

時間	主な学習内容と学習活動	知	思	態
1	<p>■ 本課で身に付ける技能や理解する内容を知る。</p> <p>① 「中国地方に初めて訪れる ALT の友人に紹介するために」という目的を明確にして、広島県または岡山県について紹介する原稿を書く。</p> <p>② 書いた原稿を 4 人グループで持ち寄り、テーマを 1 つに決める。</p> <p>③ グループで原稿を推敲し、その過程でプレゼンをよりよくするためにどのような情報が必要かを考える。</p>			
2	<p>■ 複数の項目を比較し、口頭で説明する練習をする。</p> <p>① 比較級 (-er)・最上級 (-est) の用法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都道府県の人口・面積を比較するクイズを用いた教師のイントロダクションから、比較級と最上級の言語形式の違いに気づく。 ・Get-Part1 (pp.86-87) の内容を通して、比較級 (-er)・最上級 (-est) の使い方を理解する。 ・比較級 (-er)・最上級 (-est) を用いたパンプラクティスを行う。 ・教師から与えられたデータ (図) をもとに、複数の項目を比較し、口頭でパートナーに説明する練習をする。 <p>② Part 1 からメイリンがどのようなプレゼンテーションをするか予測する。</p>			
3	<p>■ 必要な情報を得るためにアンケートを作成する。</p> <p>① 比較級 (more)・最上級 (most) の用法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p.89 Practice (Listen)を通じて、比較級 (-er と more)・最上級 (-est と most) それぞれの言語形式の違いに気づく。 ・Get-Part2 (pp.88-89) の内容を通して、比較級 (more)・最上級 (most) の使い方を理解する。 ・比較級 (-er)・最上級 (-est) を用いたパンプラクティスを行う。 ・教師から与えられたデータ (グラフ) をもとに、複数の項目を比較し、口頭でパートナーに説明する練習をする。 			

	<p>② 必要な情報を得るためにアンケートを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メイリンが何のためにアンケートをとっているのか推測する。 ・自分たちのプレゼンをよりよくするための情報を得るためのアンケートの質問項目を考える。 ・アンケートを作成する。 			
4	<p>■ データからわかることについて考察する。</p> <p>①同級比較の用法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ p.91 Practice (Listen)を通じて、同級比較の言語形式に気づく。 ・ Get-Part2 (pp.88-89) の内容を通して、同級比較の使い方を理解する。 ・ 同級比較を用いたパンプラクティスを行う。 <p>②データからわかることについて考察をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師から与えられたデータ (図とグラフ) をもとに、複数の項目を比較し、口頭でパートナーに説明する練習をする。 ・ データからわかること (解釈) を言語化する練習をする。 <p>③他のグループが作成したアンケートに答える。</p>			
5	<p>■ 持ち寄った情報をもとに、原稿に加筆をする。</p> <p>① USE-READ の内容を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内容に関する英問英答を口頭で行う。 ・ Get Part 2-3 の内容がどのように USE-READ に反映されているかを考える。 ・ プレゼンテーションの構成について理解する。 <p>② 持ち寄った情報をもとに、原稿に加筆をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ より詳細な情報を提供するために、各自が自宅から持ち寄った情報 (インターネットや書籍) をもとに原稿に加筆をする。 ・ 教科書のモデルに倣い、プレゼンテーションの構成を再考する。 			
6 本 時	<p>■ アンケート結果をもとに原稿に加筆をする。</p> <p>①データを用いて説明するときに見える表現を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表やグラフ、写真などの視覚情報を使う利点について知る。 ・ グラフと表を用いた事実の説明の仕方を理解する。 ・ 教科書の表現からプレゼンテーションで使えるような表現を抽出する。 <p>②データを用いて説明をする練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ データを用いて「事実」について説明する練習をする。 ・ データから読み取れる「解釈」について説明する練習をする。 <p>③ アンケート結果をもとに原稿を推敲する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート結果を集計し、グラフや図などの視覚情報で表す。 ・ アンケート結果から「事実」と「解釈」を区別化する。 			
7	<p>■ 聞き手に配慮して発表をする練習をする。</p> <p>①原稿の最終推敲をする。</p> <p>②グループ内でプレゼンテーションの練習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ内で原稿を音読する。 			

	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように読めば、聞き手により伝わりやすくなるか考える。 ・Stretching / Stress / Pause の3点に注意をして教科書のモデルを朗読する。 ・以上3点に注意をして自分たちのグループ原稿を朗読する。 ・2人1組になり、グループ内で発表しあい、ピアフィードバックを行う。 			
8	<p>■ 中国地方に初めて訪れる ALT の友人に紹介するために、広島・岡山について紹介をするプレゼンテーションを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に、図やグラフなどの視覚情報を用いてプレゼンテーションを行う。 ・他グループへの評価シートを記入する。 ・自分たちのグループの発表を iPad で録画した映像を見て、自己評価シートを記入する。 	○	○	○

9. 本時の展開 (第6時)

(1) 本時のねらい：アンケート結果をもとに原稿に加筆をする。

(2) 準備物：教科書、iPad、HDMI ケーブル、タイマー

(3) 学習の展開

時間	学習内容および活動	指導上の留意点	知	思	態
1	<p>Greeting</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語であいさつを行う。 				
2	<p>Introduction</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界地図を見て、オーストラリア、中国、インドの首都、面積、人口について考える。 ・教師によるモデルパフォーマンスを見た後、視覚情報 (図・表・グラフ) を使う利点について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚情報がある場合とない場合を比較させることで考えさせる。 ・それぞれの視覚情報の特徴について考えさせる。 			
5	<ul style="list-style-type: none"> ・再び教師によるモデル提示を見て、ディクテーションを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書以外の表現も含め、視覚情報を用いた事実の報告の仕方を説明する。 			
7	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の中から、データを用いて説明するときに見える表現を抽出する。 	<p>“The three common answers were ~”, “As the chart shows,” などの表現に注目させる。</p>			
10	<p>Practice 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データを用いて説明するときに見える表現を用いた例文の日本語を、口頭で英訳する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的なデータなどを視覚的に示しながら、そのデータから分かることを英語で話せるようにする。 			

15	Practice 2 ・ペアで、提示されたデータをもとに、「事実」と「解釈」を説明しあう。	・「そのデータが何を示しているか」という「事実」、「そこから分かる内容や気づき」という「解釈」を区別化するよう指導する。 ・机間巡視をして生徒のパフォーマンスを観察する。 ・先の観察を通して上手に出来た生徒を指名発表させることで、他の生徒にモデルパフォーマンスを示す。			
25	Revision ・第4時に実施したアンケートに対するクラスメイトの回答を集計し、図やグラフなどの視覚情報に書き表す。	・適切な視覚情報（図・グラフ・表）を選択するように促す。			
35	・アンケート結果を、「事実」と「解釈」の2観点から分析する。				
42	・スピーチ原稿に加筆する				
50	Greeting ・あいさつ。	・次回の活動の予告を行う。			

(4) 板書事項

事実 This table / chart / graph shows ... As the chart shows... The three common answers were ...	解釈 They think ... They feel ... In ○○, you can ... ○○ may ... In conclusion, ...
---	--

(5) 発問例(Comprehension)